

伯國の農業

それは寄生蟲の卵で、殊に多いのはきょう蟲の卵です。之は小供に非常に多い寄生蟲で、大腹の一番下の部分に多數で、人體に対する害は腸の中に住んでゐる極く小さい白い蟲で、人體に對する害は腸の中に住むかれて來て其の周圍の皮膚に卵を生みつけます。其の際の特性として卵を生みつける爲めに人が寝静まつて後に肛門の外に出かけて來て其の周圍の皮膚に卵を生みつけます。其の際には常に痒いのです。殊に陽氣覺えずかいた爪の中には其の卵が暖かくなると蟲の卵を生む肩に卵を生みつけます。其の際には常に痒いのです。殊に陽氣が寒い時よりも強く、其の痒さの爲めに小供は安眠を妨げられます。これが意外な影響を及ぼすのです。之が豫防法としては爪を能く切り、中の垢を始終ために衰弱し、意外な影響を及ぼすのです。それ故に肝門の周囲に睡眠の前に、水銀軟膏を塗つてやつて、産卵をする餘地のないやうにしてやるのです。それが肝門をかねがつた時は、必ず若夫に診て貰う事が必要です。

都會奇談 その一
——今晩は……
男は突然逃げ出したいやうな身ぶりをしたが、辛ふじて身を支へた。私は繰り返した。
「今晚は、僕はあれを取りに来たんだがねえ……解るかい？」

男はさつぱりした身なりのムラトだつた。眼深にかぶつたソフトの下には、二つの眼が怪しくも熱病人のやうに輝いて居た。それは疑ひもなくコカイン愛用者の眼だつた。

男は怖る／＼口を切つた。さうして半ば獨語するやうな口調で言つた。

「私には解りませんなあ。私は船員ですがね。毎晩情人に會ひに行くんでこゝを通るだけですからな」

『ねえ船員さん、さうびくしなくとも好いさ。何しろ僕は困りますねえ……』

私は海員と自稱する男の両手に眼を注いだ。それは私のよりも細く痩せた手だつた。

彼の眼は見れば見なほどの悪い病的輝いて、頬骨かな震へと言ひ、間違ひもなくコカイン狂の特徴を表はして居た。そこで私は計略をめぐらし

た。少しやつたよ。じや、さよなら……』

私はコカイン愛用者のするやうに、両手の甲を鼻孔にすりつけ乍歩きかゝつた。男は好いあはて、聲を掛けた。

『旦那！ はつきり言つて下さい』

——（中） X Y Z

都會奇談

その一

何が御入要なんですか？

三つ！

私は再び叫んだ。

三つですつて？ 何にをですか？

知れてるじやないか。三本の

粉さ。御存じの小瓶さね

『解りませんねえ』

『白てくれたつて駄目の皮だよ

價段は幾らでも好いんだからね

『え？ じや幾ら拂ひます？』

『一グラムにつき古ミルレースまで！』

『三グラムで六十針レース？』

『その通り！』

『じや、ちよいと待つて下さい

すぐ持つて来ますから……』

強情を張つて居たその男は、

疑ひ深さうな様子であたりに氣をくばつて居たが、ついと便所に駆込んだがと思ふと、間もなくホツと安心の溜息をもらして吸込まれるやうに闇の中に消え去つた。

由來宗教は教へなり、善男善女に對して斯くの如く人生に處すべしと教へたる

ものなり、しかし教は到底物には非ず、孔孟基釋決して道を造れる者に非ず、彼等は道傳へたるのみ、釋迦の立つ前、基督の出づるに先立ち、道は天皇より人類と共に在り、たゞ希望の聲を聞く、一應御光の様に聞かれるが如き、神は神と共に在り佛と共に在り人と俱に在り、我等の理想は夫れ神人合一、道我非二の妙境にあるが、喝。

在伯日本人中の所謂名士に根本一なし

のものでないことを確かめるこ

とを聞くに孔孟基釋の教を以てするのみ

のものでなく、孔孟基釋決して道を造れる者に非ず、彼等は道傳へたるのみ、釋迦の立つ前、基督の出づるに先立ち、道は天皇より人類と共に在り、たゞ希望の聲を聞く、一應御光の様に聞かれるが如き、神は神と共に在り佛と共に在り人と俱に在り、我等の理想は夫れ神人合一、道我非二の妙境にあるが、喝。

私故流れは矢継ぎ

く。（五五六、六）

任するの士か。

筆者の如きは素より學なく才なくまた

然れども教理論は其黨内に於いて確

徳なし、思想として立つが如きは到底

不撃の神話有らず、有ざる者には無に

云ふべきであるが如きの如きは

派に拘々たらざる所似なるか。

さあらばあれ後世畏る可いふ事

其二か。

あり、努力な重ねて止まざれば未來に於いて人類が破滅するに至らぬ事

本一ミヤラに最後の大難達なし、其根

コント、咖啡何万本、土煙何百アカルケル

大難人出現せずとも限らず、若し斯くの

如きこありしけば誠に之に望外の幸な

り。

似て、いきなり三本の指を彼の

鼻さきに突き示した。それは三

グラムのコカインを意味するの

である。

哲學に失望して宗教に向んとするか

宗敎を信するに以先づ何等の議論なく無

けん、カント、ヘーゲル此士に再生する

も要求せざりし事の如き其三ならんか。

も吾人は之等を解する能はざるべく、エ

マーリン、カーライル等

にて、人體が破滅するに至る事

其の如きは、即ち神は其存在をも證明す

事

に見るに堪へざるものあり、論争の眞

眞

神を傳ふる正統派なれど、論争の眞

眞

に見ゆるに堪へざるものあり、論争の眞

眞

▼ 日 本 近 信 ▲

捨てる塵芥から立派な炭が出来る

萬有木炭と氣焰

大東京 八百八町のごみ溜から出る塵芥は、毎日二十萬貫といふ驚くべきもので、これを處分するのに

多額の金を費してゐる塵芥の利用法についても學者達が

多年研究してゐるが、まだこれ

といつて目ぼしい事も出来ないところが今回無名の一職工の思ひつきから實に驚異に價ひす

る、塵芥利用法が發見された、この研究による

夫は一日の塵芥量廿萬貫の十分木炭で例へば枯木でも枯葉でも

の二千貫乃至九萬貫の立派な木炭を製し得るといふ事である、この研究は

最初練炭の一職工が偶然の思ひつきから企てたものを市外砂町の徳田一郎氏(五)が協力してやつて大成したもので、實に本邦製炭界に一大革命を齎す

大發見である、塵芥を以て木炭を作る新發明は、先づ塵芥中より燃燒物と不燃燒物とをわけて、つまり燃える木や紙、布のやうなものゝみとして最初機械にかけてこれを乾燥し、更にあら焼きをして粉となし、樂

市川壯助博士も協力して最近特殊の製炭機を考案し、既に特許出願中である、この新發明が許可等かの方で右發明の権利を譲り受けたか、或は河合博士を譲り受けたか、この新發明は現れて大騒ぎを演じた、この

等に詰つて塵芥を無代で提供し

うとしたら奇麗にもそれが動き出し

太と同じ色を帶びた胴廻り一尺三寸もあり約二丈もあらうとは七月二十五日午後四時から天

思ふ太蛇なので腰を折かさん許りに仰天して騒ぎ出したので居ても困る厄介なごみ化して立派な木炭とする事に成功した農

我輩の手柄じやないよ德国教授河合博士は「いや、我輩の立場から單にやりかけたことを大成したに過ぎない、

田一郎君が職工と協力して苦心して研究してゐたので、我輩は打ち騒いでゐる中太蛇は何れへか妻を隠してしまつた、この大蛇は寄りつくものがなく遠巻にしてはれたが午後八時頃殆ど宣錦の蛇出現に脅えてか廿日は數名の

空高く打ちあげられた花火の響きと共に畫の部の幕は切つて落合せた多數の人夫や皇宮警手等された、兩國橋上に詳がる觀客にも困る厄介なごみ化して立派な木炭とする事に成功した農業者立場から單にやりかけたことを大成したに過ぎない、

田一郎君が職工と協力して苦心して研究してゐたので、我輩は打ち騒いでゐる中太蛇は何れへか妻を隠してしまつた、この大蛇は寄りつくものがなく遠巻にしてはれたが午後八時頃殆ど宣錦の蛇出現に脅えてか廿日は數名の

うち、人夫が古丸太と思ひ除かしめた妓七名を切りつけ一名を即死せ

しめた

うとしたら

兩國の川開き

そ

内省では明年度豫算議を開いたが緊縮の折柄にて目ぼしい

外務省明年度豫算議を開始するが如きが最もよく普及され付けています。本器は又果樹園芸等の經營者シヨウル植民地の者として既に定評あり。類似な

中、人夫が古丸太と思ひ除かしめた妓七名を切りつけ一名を即死せ

しめた

うとしたら

奇妙にもそれが動き出し

太と同じ色を帶びた胴廻り一尺三寸もあり約二丈もあらうとは七月二十五日午後四時から天

思ふ太蛇なので腰を折かさん許りに仰天して騒ぎ出したので居ても困る厄介なごみ化して立派な木炭とする事に成功した農業者立場から單にやりかけたことを大成したに過ぎない、

田一郎君が職工と協力して苦心して研究してゐたので、我輩は打ち騒いでゐる中太蛇は何れへか妻を隠してしまつた、この大蛇は寄りつくものがなく遠巻にしてはれたが午後八時頃殆ど宣錦の

蛇出現に脅えてか廿日は數名の

うち、人夫が古丸太と思ひ除かしめた妓七名を切りつけ一名を即死せ

しめた

うとしたら

奇妙に

もそれが動き出し

太と同じ色を帶びた胴廻り一尺三寸もあり約二丈もあらうとは七月二十五日午後四時から天

思ふ太蛇なので腰を折かさん許りに仰天して騒ぎ出したので居ても困る厄介なごみ化して立派な木炭とする事に成功した農業者立場から單にやりかけたことを大成したに過ぎない、

田一郎君が職工と協力して苦心して研究してゐたので、我輩は打ち騒いでゐる中太蛇は何れへか妻を隠してしまつた、この大蛇は寄りつくものがなく遠巻にしてはれたが午後八時頃殆ど宣錦の

蛇出現に脅えてか廿日は數名の

うち、人夫が古丸太と思ひ除かしめた妓七名を切りつけ一名を即死せ

しめた

うとしたら

奇妙に

もそれが動き出し

太と同じ色を帶びた胴廻り一尺三寸もあり約二丈もあらうとは七月二十五日午後四時から天

思ふ太蛇なので腰を折かさん許りに仰天して騒ぎ出したので居ても困る厄介なごみ化して立派な木炭とする事に成功した農業者立場から單にやりかけたことを大成したに過ぎない、

田一郎君が職工と協力して苦心して研究してゐたので、我輩は打ち騒いでゐる中太蛇は何れへか妻を隠してしまつた、この大蛇は寄りつくものがなく遠巻にしてはれたが午後八時頃殆ど宣錦の

蛇出現に脅えてか廿日は數名の

うち、人夫が古丸太と思ひ除かしめた妓七名を切りつけ一名を即死せ

しめた

うとしたら

奇妙に

もそれが動き出し

太と同じ色を帶びた胴廻り一尺三寸もあり約二丈もあらうとは七月二十五日午後四時から天

思ふ太蛇なので腰を折かさん許りに仰天して騒ぎ出したので居ても困る厄介なごみ化して立派な木炭とする事に成功した農業者立場から單にやりかけたことを大成したに過ぎない、

田一郎君が職工と協力して苦心して研究してゐたので、我輩は打ち騒いでゐる中太蛇は何れへか妻を隠してしまつた、この大蛇は寄りつくものがなく遠巻にしてはれたが午後八時頃殆ど宣錦の

蛇出現に脅えてか廿日は數名の

うち、人夫が古丸太と思ひ除かしめた妓七名を切りつけ一名を即死せ

しめた

うとしたら

奇妙に

もそれが動き出し

太と同じ色を帶びた胴廻り一尺三寸もあり約二丈もあらうとは七月二十五日午後四時から天

思ふ太蛇なので腰を折かさん許りに仰天して騒ぎ出したので居ても困る厄介なごみ化して立派な木炭とする事に成功した農業者立場から單にやりかけたことを大成したに過ぎない、

田一郎君が職工と協力して苦心して研究してゐたので、我輩は打ち騒いでゐる中太蛇は何れへか妻を隠してしまつた、この大蛇は寄りつくものがなく遠巻にしてはれたが午後八時頃殆ど宣錦の

蛇出現に脅えてか廿日は數名の

うち、人夫が古丸太と思ひ除かしめた妓七名を切りつけ一名を即死せ

しめた

うとしたら

奇妙に

もそれが動き出し

太と同じ色を帶びた胴廻り一尺三寸もあり約二丈もあらうとは七月二十五日午後四時から天

思ふ太蛇なので腰を折かさん許りに仰天して騒ぎ出したので居ても困る厄介なごみ化して立派な木炭とする事に成功した農業者立場から單にやりかけたことを大成したに過ぎない、

田一郎君が職工と協力して苦心して研究してゐたので、我輩は打ち騒いでゐる中太蛇は何れへか妻を隠してしまつた、この大蛇は寄りつくものがなく遠巻にしてはれたが午後八時頃殆ど宣錦の

蛇出現に脅えてか廿日は數名の

うち、人夫が古丸太と思ひ除かしめた妓七名を切りつけ一名を即死せ

しめた

うとしたら

奇妙に

もそれが動き出し

太とと同じ色を帶びた胴廻り一尺三寸もあり約二丈もあらうとは七月二十五日午後四時から天

思ふ太蛇なので腰を折かさん許りに仰天して騒ぎ出したので居ても困る厄介なごみ化して立派な木炭とする事に成功した農業者立場から單にやりかけたことを大成したに過ぎない、

田一郎君が職工と協力して苦心して研究してゐたので、我輩は打ち騒いでゐる中太蛇は何れへか妻を隠してしまつた、この大蛇は寄りつくものがなく遠巻にしてはれたが午後八時頃殆ど宣錦の

蛇出現に脅えてか廿日は數名の

うち、人夫が古丸太と思ひ除かしめた妓七名を切りつけ一名を即死せ

しめた

うとしたら

奇妙に

もそれが動き出し

太とと同じ色を帶びた胴廻り一尺三寸もあり約二丈もあらうとは七月二十五日午後四時から天

思ふ太蛇なので腰を折かさん許りに仰天して騒ぎ出したので居ても困る厄介なごみ化して立派な木炭とする事に成功した農業者立場から單にやりかけたことを大成したに過ぎない、

田一郎君が職工と協力して苦心して研究してゐたので、我輩は打ち騒いでゐる中太蛇は何れへか妻を隠してしまつた、この大蛇は寄りつくものがなく遠巻にしてはれたが午後八時頃殆ど宣錦の

蛇出現に脅えてか廿日は數名の

うち、人夫が古丸太と思ひ除かしめた妓七名を切りつけ一名を即死せ

しめた

うとしたら

奇妙に

もそれが動き出し

太とと同じ色を帶びた胴廻り一尺三寸もあり約二丈もあらうとは七月二十五日午後四時から天

思ふ太蛇なので腰を折かさん許りに仰天して騒ぎ出したので居ても困る厄介なごみ化して立派な木炭とする事に成功した農業者立場から單にやりかけたことを大成したに過ぎない、

田一郎君が職工と協力して苦心して研究してゐたので、我輩は打ち騒いでゐる中太蛇は何れへか妻を隠してしまつた、この大蛇は寄りつくものがなく遠巻にしてはれたが午後八時頃殆ど宣錦の

蛇出現に脅えてか廿日は數名の

うち、人夫が古丸太と思ひ除かしめた妓七名を切りつけ一名を即死せ

しめた

うとしたら

奇妙に

もそれが動き出し

太とと同じ色を帶びた胴廻り一尺三寸もあり約二丈もあらうとは七月二十五日午後四時から天

思ふ太蛇なので腰を折かさん許りに仰天して騒ぎ出したので居ても困る厄介なごみ化して立派な木炭とする事に成功した農業者立場から單にやりかけたことを大成したに過ぎない、

田一郎君が職工と協力して苦心して研究してゐたので、我輩は打ち騒いでゐる中太蛇は何れへか妻を隠してしまつた、この大蛇は寄りつくものがなく遠巻にしてはれたが午後八時頃殆ど宣錦の

蛇出現に脅えてか廿日は數名の

うち、人夫が古丸太と思ひ除かしめた妓七名を切りつけ一名を即死せ

しめた

うとしたら

奇妙に

もそれが動き出し

太とと同じ色を帶びた胴廻り一尺三寸もあり約二丈もあらうとは七月二十五日午後四時から天

思ふ太蛇なので腰を折かさん許りに仰天して騒ぎ出したので居ても困る厄介なごみ化して立派な木炭とする事に成功した農業者立場から單にやりかけたことを大成したに過ぎない、

到る處人氣を湧かせ

西に南に舌行脚

バウルからサンントス

荒井書記官熱辯の好反響

當市に於ける二回の葡語講演で

眞の今日の日本を紹介し、滿都

官は更にバウル市に赴き、五日

午後七時半から活動寫

眞入り葡語講演會

に催し、千數百人の聽衆を熱辯

に酔はせ、午後九時半から在留

邦人のみの爲邦語講演及活動寫

真上映をなし、之亦頗る盛況で

十二時頃散會した、バウルの講

演を済ました同書記官は、七日

直行してサンントスへ下り、八日

夜はヨリセオ・サンチスタ座で

伯國人

に對し葡語講演會

を催したが、リオやサンパウロ

での人氣に煽られて此處でも非

常な盛況、恰度葡國コインブラ

を催された豫想は美事に裏切

られた、官の人民の人各國領事

等一流ごとをすぐつた

大學々生音樂團の滯在中とて多

少危ぶまれた豫想は大いに裏切

して取調べてゐる

陸軍の佛教官團

伯國陸軍の佛教官團との契約

は千九百二十七年で満期となる

ので更に十年以上契約更改説が

有力となつてゐる

伯國陸軍の佛教官團との契約

は千九百二十七年で満期となる

ので更に十年以上契約更改説が

對日感情も緩和

廣東政府の首領

總領事館着情報

支那問題に就き最近當地總領事

の用意の時期が迫つてゐる昨今

一向氣乗がせず手を挙いて悲觀

してゐるのでシングカト・アグ

リコーラド・リオ・グランデ・ド:

スールは大に心配して聯邦農務

大臣に事情を陳情して適宜の處

を發する等、對日感情大に緩和

置を請願した

官民宛

日本支親

善を提唱する通電

を發する等、對日感情大に緩和

置を請願した

伊國の新設南北直通海底電線

（東京九日發）最近八阪丸を浮

揚せしめた日本深海工業所は英

國の保險會社から

工事依頼を承諾した同工業所は

三工場は既に操業し居り、租界

の戒嚴令も事態安定に歸せるた

め二十八日解除され、列國陸

軍器局長コロニア海軍機關中佐

東の質權は同派に歸した

從來廣東政府に於ては内部の

暗闇甚

しかりしが八月二

十日極左傾派の首領仲愷外一

名暗殺せられたる自動機として

遂に其の破裂を見た胡漢民は兩

東の質權は同派に歸した

蒋介石にて汪兆銘、謝介石

沈沒し百萬弗と稱せられるキ

ナード線汽船エジプト號浮揚

工事依頼を報酬として引揚た價額の八割を報酬として

沈没し百萬弗と稱せられるキ

ナード線汽船エジプト號浮揚

工事依頼を報酬として引揚た價額の八割を報酬として

國米の輸入に押されてしまふ事

になり米作者の一大脅威だと伯

き旨を命じた、之は着陸地を同

足で困つてゐるが最近にはリオ

でも水道給水不足し一日の如き

各列車は運轉一時休止に陥つた

大正十四年九月十日

在バウル

アフ・武雄氏

藤崎商會總支配

車にリオに歸店の筈

の同氏は一昨日來聖本日夜演

幕四地方に

大陸に

關四地方に

大降兩

幕四地方に

右の者に至急用事あり現住所通

大石内藏之助 半井桃水

第二百三十五回

おはるは今年十八歳、容色才藝に優れて、誠に得難い佳人である。兩親はおはるの爲めに何うか好い婿を取りたいものと、平生是ばかりを苦勞した。

十郎右衛門は新六が、潔い意氣に感じて、窓におはるの婿に擬し、新六が初お見えの夜夫婦對座になつた時、妻子に向ひ、頻聲を認め、おはるは疾より新六が時をした、妻は喜んで此の日十郎右衛門は、但馬守の供に立ち、夜更て我家へ立歸つた、操おはるは待受け、御城内の騒動、先刻ちらと承入、實父喜兵衛出府の日を、今か翌かと待つ中に、忽ち浅野家は滅亡した。

此に於て十郎右衛門は新六おはるの縁組の事を、早速中堂へ申入れ、實父喜兵衛出府の日を、今か翌かと待つ中に、忽ち浅野家は滅亡した。

此の日十郎右衛門は、但馬守の供に立ち、夜更て我家へ立歸つた、操おはるは待受け、御城内の騒動、先刻ちらと承入、實父喜兵衛出府の日を、今か翌かと待つ中に、忽ち浅野家は滅亡した。

『今日營中の凶變』 浅野殿のお

郎は二十七歳、文武兩道に優れ

成行、新六殿は申すに及ばず、まして、行末頼母しい人物、よ

御夫婦のお歎きも左こそ存じ

も此儘浪士となつて、朽れる事

取敢ずお見舞の爲め參つて御座

る』

『仕官のお望みあるならば、精

勤答の御式當日、御馳走番で

終日御疲労のある處へ、わざ

夕肝煎致す御座らう』

お見舞ひ下し置かれ、いつ

『何分ともお力添への程、宜

味、不届至極であつて、田村右

京殿へお預けの上直に切腹仰付

に變らぬ御懇情、千萬忝じけな

う存じます、いざ先づお通り

下されませう』

『必ずお構ひ下さるな、深夜御

まれたな』

迷惑とは存するが、一應新六殿

『儘か百石頂き居りました』

にもお目に掛り、おくやみ申入

『さらば斯やう致したら如何で

家は赤穂に於て、何程の祿を食

しくお願ひ申上げます』

『エ、何と仰せります』

『勅答の御式當日、御馳走番で

終日御疲労のある處へ、わざ

夕肝煎致す御座らう』

お見舞ひ下し置かれ、いつ

『何分ともお力添への程、宜

味、不届至極であつて、田村右

京殿へお預けの上直に切腹仰付

に變らぬ御懇情、千萬忝じけな

う存じます、いざ先づお通り

下されませう』

『必ずお構ひ下さるな、深夜御

まれたな』

迷惑とは存するが、一應新六殿

『儘か百石頂き居りました』

にもお目に掛り、おくやみ申入

『さらば斯やう致いたら如何で

家は赤穂に於て、何程の祿を食

しくお願ひ申上げます』

『エ、何と仰せります』

『勅答の御式當日、御馳走番で

終日御疲労のある處へ、わざ

夕肝煎致す御座らう』

お見舞ひ下し置かれ、いつ

『何分ともお力添への程、宜

味、不届至極であつて、田村右

京殿へお預けの上直に切腹仰付

に變らぬ御懇情、千萬忝じけな

う存じます、いざ先づお通り

下されませう』

『必ずお構ひ下さるな、深夜御

まれたな』

迷惑とは存するが、一應新六殿

『儘か百石頂き居りました』

にもお目に掛り、おくやみ申入

『さらば斯やう致いたら如何で

家は赤穂に於て、何程の祿を食

しくお願ひ申上げます』

『エ、何と仰せります』

『勅答の御式當日、御馳走番で

終日御疲労のある處へ、わざ

夕肝煎致す御座らう』

お見舞ひ下し置かれ、いつ

『何分ともお力添への程、宜

味、不届至極であつて、田村右

京殿へお預けの上直に切腹仰付

に變らぬ御懇情、千萬忝じけな

う存じます、いざ先づお通り

下されませう』

『必ずお構ひ下さるな、深夜御

まれたな』

迷惑とは存するが、一應新六殿

『儘か百石頂き居りました』

にもお目に掛り、おくやみ申入

『さらば斯やう致いたら如何で

家は赤穂に於て、何程の祿を食

しくお願ひ申上げます』

『エ、何と仰せります』

『勅答の御式當日、御馳走番で

終日御疲労のある處へ、わざ

夕肝煎致す御座らう』

お見舞ひ下し置かれ、いつ

『何分ともお力添への程、宜

味、不届至極であつて、田村右

京殿へお預けの上直に切腹仰付

に變らぬ御懇情、千萬忝じけな

う存じます、いざ先づお通り

下されませう』

『必ずお構ひ下さるな、深夜御

まれたな』

迷惑とは存するが、一應新六殿

『儘か百石頂き居りました』

にもお目に掛り、おくやみ申入

『さらば斯やう致いたら如何で

家は赤穂に於て、何程の祿を食

しくお願ひ申上げます』

『エ、何と仰せります』

『勅答の御式當日、御馳走番で

終日御疲労のある處へ、わざ

夕肝煎致す御座らう』

お見舞ひ下し置かれ、いつ

『何分ともお力添への程、宜

味、不届至極であつて、田村右

京殿へお預けの上直に切腹仰付

に變らぬ御懇情、千萬忝じけな

う存じます、いざ先づお通り

下されませう』

『必ずお構ひ下さるな、深夜御

まれたな』

迷惑とは存するが、一應新六殿

『儘か百石頂き居りました』

にもお目に掛り、おくやみ申入

『さらば斯やう致いたら如何で